



ベトナム乳製品市場の王

個人的に海外で一番楽しい場所はスーパーであり、それはここベトナムも同じだ。数々のベトナムらしい商品や、日本で見かけない食材を目にする。

また、多くの商品にカトラリーやおもちゃなどの「おまけ」がついており、これもまたベトナムらしさの一つと感じる。

そんな中目を引くのが乳製品だ。ベトナムコーヒーに使用するコンデンスミルクや、日常的に飲む牛乳、ヨーグルトなど、ベトナムの人々の生活に乳製品は欠かせない。

可愛らしいパッケージの数々で目立つ老舗No.1ブランド「ビナミルク」をはじめ、「TH True Milk」「Dalat Milk」など国内企業の存在感は大きい。海外企業では「ネスレ」「Duch Lady」などが1990年代後半にベトナムに進出。2000年代に入り日本の「森永」「ヤクルト」もベトナムでの商品販売を開始し、スーパーで見かけるブランドになっている。



競争が激しい乳製品のおまけは特に目立つ。
日本のヤクルトや森永も参入しており、
おまけもユニーク。

※JSI撮影

ベトナムの乳製品市場

ベトナム乳業協会（VDA）によると、2023年時点でのベトナムの年間牛乳消費量は一人当たり26～28リットルである。国際的に高い水準ではないが（隣国のタイは年間約35リットル）、2030年までに40リットルにまで増加すると予想されている。

世界銀行によると、現在のベトナムの人口は約1億100万人だ。大きな数字ではないものの、2030年までに2.8%増加する見込みがある。実際、右肩上がりの人口に伴い、2025年～2030年の乳製品市場の年間売上平均成長率は8.20%という予測もあるほど（ドイツの統計調査会社Statistaより）、期待されている市場だ。

2025年上半期の生乳生産量も約8億リットルと前年同期比3.4%増を記録しており、安定的な成長期待ができる産業の一つといえるのではないかな。

ここで注目したいのは国内で乳製品シェア率1位を誇るビナミルクである。ベトナムに14カ所、ラオスに1カ所、計15カ所の広大な農場を所有しており、そこで乳製品を生産している。2024年時点での自社保有の牛の数は約4万頭、契約している農場の牛の数を合わせると14万頭を超える。



ビナミルクのコーナーは大きいと感じた。
そしてとてもカラフル。

※JSI撮影



ベトナム乳製品市場の王

工場はベトナム国内に14カ所、アメリカとカンボジアにそれぞれ1カ所ずつの計16カ所あり、生産から加工、流通、販売まで自社で完結できる。国内の乳製品マーケットシェア率は2024年時点は50%で、突出している。

2023年に会社のロゴを変更し、牛乳やアイスクリームなどのパッケージを一新するなど「長期的なブランドイメージの確立」へ力を注いでいる。2020年にはForbes Vietnamの「ベトナムで最もブランド価値の高い企業」上位10社に選出された。さらに、2025年にはオランダで開催された世界乳製品会議で最優秀賞2部門を獲得するなど、企業の信頼性・知名度・製品の安全性の面からも評価が高いといえる。

現在は海外63か国に輸出しており、特に中東のハラール市場の売り上げが大きい。また2025年にはベトナム国産ブランド牛開発のため、双日と牛の肥育農場・食肉加工工場の共同稼働がスタートしている。日本とも関係が深い会社だ。



パッケージが可愛らしく、目を引く。ビナミルクはジュースも販売している。牛乳は種類が豊富にあり、個人的にはGREEN FARMシリーズがお気に入りだ。

※JSI撮影



左がビナミルクの旧ロゴ、右が新ロゴ

※Vinamilk公式HPより※JSI撮影

(執筆：Japan Securities Co., Ltd. 研修生・淵之上)

免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。